

① 制度の概要

生産緑地の貸借制度を活用し、都市農地保全と「農」を通じた多世代交流・地域交流の活性化を併せて進める、体験農園等の整備・運営を支援。「わくわく都民農園小金井」をモデルとした取組を都内へ波及させることを目指す制度です。

農業生産に留まらず、防災やレクリエーション等の多面的機能を有する貴重な都市農地の保全を推進します。生産緑地の2022年問題への対応と、高齢社会における地域活性化を同時に実現することを目的としています。

② 支援内容

□ 整備に関する費用

体験農園等の施設建設・整備工事や農業機械等の初期導入費用

最大1,000万円

補助率1/2以内

□ 運営に関する費用

農園管理人件費、生産緑地賃借料等を3年間継続して支援

最大1,000万円

補助率2/3以内

◎ 対象となる取組

【整備関連の取組】

- 体験農園等の施設建設・整備工事
- 農業機械／設備の導入
- ビニールハウス等農業施設の設置

【運営関連の取組】

- 農園管理に係る人件費／賃借料
- 多世代・地域交流活動の実施
- 体験農園の運営管理費

③ 対象者

- 生産緑地貸借制度を活用する個人事業主／法人
- 都市農地保全・交流事業を行う地方自治体
- 多世代交流事業の実施を計画している

△ 補足事項

- 運営費補助は2年目以降段階的に減額されます。
- 生産緑地貸借制度を活用した農地のみが対象。
- 公募から採択まで数か月かかる点にご注意ください。
- 原則、事業終了後の後払い（清算払い）です。

④ 採択率向上のポイント

- 多世代交流の具体性：シニア・子ども・地域住民の参加計画を詳細に。
- モデル農園の活用：わくわく都民農園の成功要素を導入。
- 継続性の明示：3年間の運営計画と収支見込みを明確化。
- 事前相談の実施：アドバイザー派遣制度の積極活用。

△ 戰略的分析

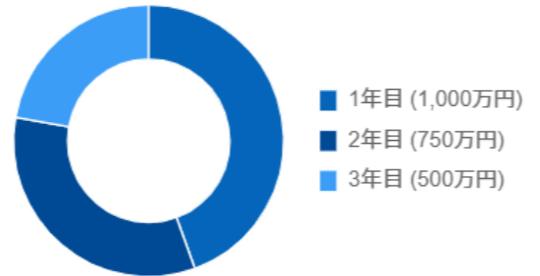
【補助金設計の特徴】

- 整備と運営の両面をカバーする包括設計。
- 運営費は段階的減額で自立化を促進。
- 東京都の政策連携で相談体制が充実。

【段階的なステップアップ戦略】

- 1年目は手厚い支援で基盤構築。
- 2年目以降の段階的自立を想定した収支計画。
- モデル農園の成功事例を応用した展開。

△ 運営費補助の推移



補助率の推移（3年間）

上限額合計：最大2,250万円（3年間）

△ モデル農園の実績

| 区画種別 | 面積・対象 |
|-------|--------------|
| シニア農園 | 51区画／50歳以上対象 |
| 福祉農園 | 高齢者・障がい者との連携 |
| 共菜園 | 保育園児の体験実習を目的 |
| こども農園 | 小学生の年間体験実習用 |
| 地域農園 | 多世代交流活動の拠点 |

△ 必要書類とチェックポイント

| 提出書類 | チェックポイント |
|-------|--|
| 事業計画書 | <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流のプログラムを記載 ・3年間の運営計画を詳細に |
| 収支予算書 | <ul style="list-style-type: none"> ・整備費と運営費を明確に区分 ・補助率に応じた自己負担額を算出 |
| 貸借契約書 | <ul style="list-style-type: none"> ・生産緑地貸借制度に基づく契約 ・賃借料の市場相場適合性 |
| 団体概要書 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業・地域活動の実績を記載 ・運営体制と責任者を明確化 |

△ 申請スケジュール

事前準備期間

- ・生産緑地貸借手続きと並行し3～6ヶ月の準備
- ・モデル農園視察とアドバイザー相談の実施を推奨

申請期間

～随時（毎年度予算の範囲内において実施しています）

- ・東京都産業労働局農林水産部農業振興課へ直接申請

審査期間

- ・申請後約1～2ヶ月（書類審査・現地確認を含む）

採択結果通知

- ・審査完了後に交付決定通知書を発送

交付決定・事業実施

- ・交付決定後に事業開始
- ・実績報告は各年度末までに提出必須

⑤ 問い合わせ

| | |
|--------|---|
| 制度詳細 | https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/nourin/nougyou/hozentoshinouchikari/ 詳細な手続きや公募要項は必ず制度詳細ページをご確認ください。 |
| お問い合わせ | 東京都産業労働局農林水産部 農業振興課 TEL.03-5320-4814 |